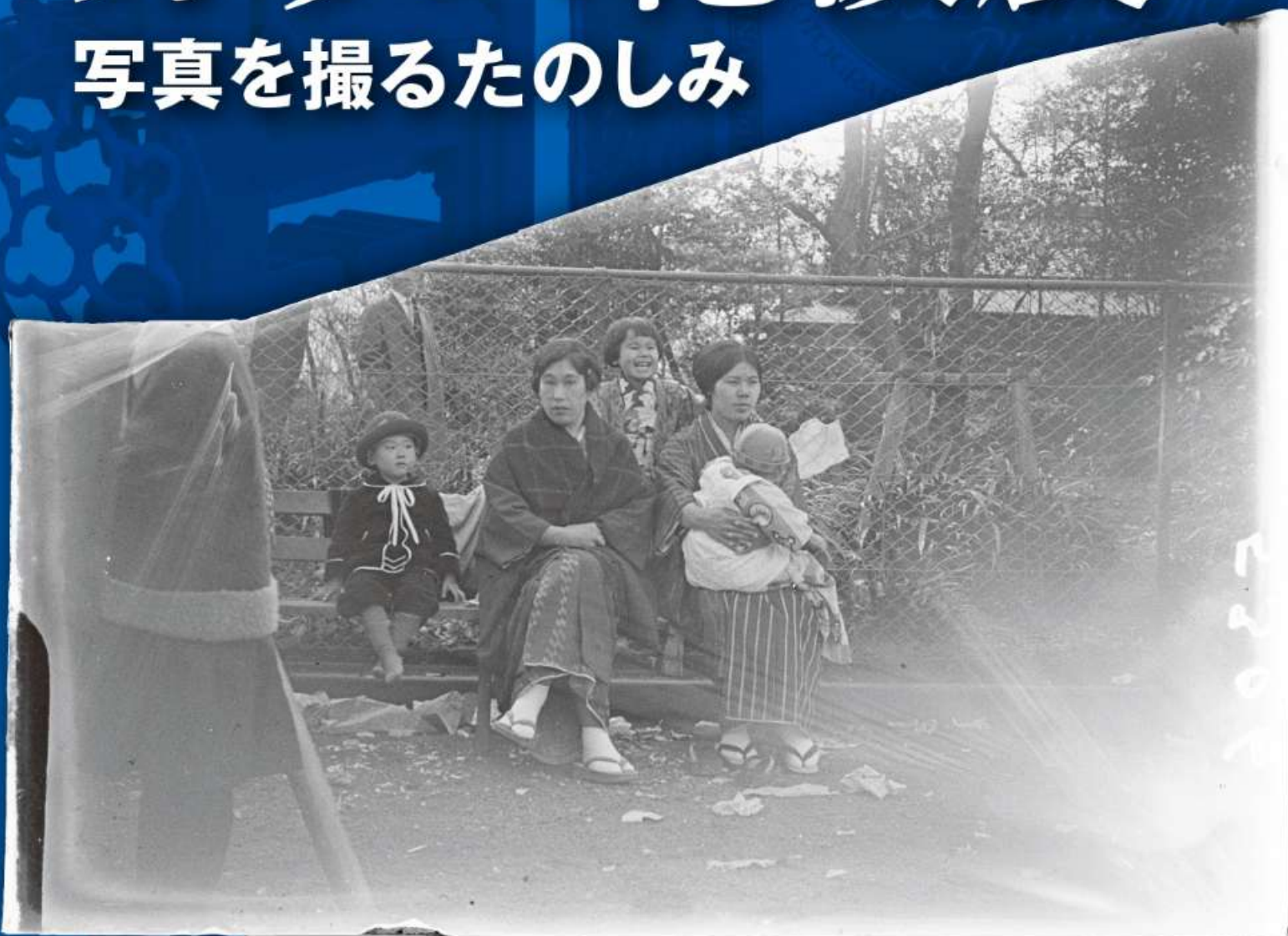


したまちミュージアム 令和7年度 企画展

ガラス乾板展

写真を撮るたのしみ



ガラス乾板 ベンチで休む女性と子ども 昭和初期

2026. **3.3** 火 → **6.28** 日

9:30 ~ 16:30 (入館は16:00まで) 毎週月曜日休館(祝休日と重なる場合は翌平日)
※5/3(日)~5/6(水)は開館し、5/7(木)休館

したまちミュージアム 3階企画展示室

入館料

一般 300円(200円)

小・中・高校生 100円(50円)

※()内は20名以上の団体料金

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、
特定疾患医療受給者証を提示の方とその介護者の方は無料

東京都台東区上野公園2-1 TEL.03-5846-8426 <https://www.taitogeibun.net/shitamachi/>

●JR・東京メトロ(銀座線・日比谷線)「上野」駅徒歩5分 ●京成電鉄「京成上野」駅徒歩3分

●台東区循環バス東西めぐりん「水上音楽堂前」「京成上野駅」徒歩3分



主催 公益財団法人 台東区芸術文化財団 / 台東区立したまちミュージアム



したまちミュージアム 令和7年度企画展

ガラス乾板展

写真を撮るたのしみ



百貨店屋上の様子 大正末～昭和初期

ギャラリー
トーク



会期中第2・第4土曜日
14:00から(30分程度)

学芸員が展示資料や見どころを解説します

ガラス乾板とはガラス表面に薬品を塗布して固めてある、写真撮影のための感光材料です。ガラス乾板の誕生は写真撮影の工程を簡略化し、それまでプロの写真家の知識と技術が必要であった写真撮影の門戸が広く開かれ、さらに大量生産が可能となったために、写真を撮ろうとする人々が増えました。当館収蔵のガラス乾板には、町角や旅先の風景や、撮影者の目を引いたものを写した何気ない写真をはじめ、私的で気軽な家族写真、中には技術の未熟さからなんとも言えない味わいを持つ写真も見られます。その傾向は後に登場するフィルムカメラでさらに顕著になりますが、ガラス乾板は写真撮影の大衆化の第一歩であったといえます。本展ではガラス乾板の登場によって撮影を始めたアマチュアカメラマンたちによる写真を紹介します。



上野公園から広小路方面 昭和初期



ガラス乾板の箱 昭和初期

アンソニー型スタジオカメラ
大正時代



ピクニックでの記念撮影 年代不明



浅草凌雲閣跡 大正12年(1923)



したまちミュージアム
SHITAMACHI MUSEUM

東京都台東区上野公園2-1 TEL.03-5846-8426
<https://www.taitogeibun.net/shitamachi/>